

私のおすすめ

何度も心動かされる1曲

CD

演奏・創作学科 弦管打楽器専修チェロ専攻 4年 高根しおん

何度聞いても必ず心を掴まれ、心動かされる曲はいくつとはない。チャイコフスキー作曲《交響曲第5番》、私はこの1曲である。この曲は有名な曲ではあるし、知っている、聞いたことあるという人は少なくないであろうと思うが、私はこの曲をどんなに音楽を知っていようが、また知っていまいが紹介したい、そう思い選ばせていただいた。

このCDは、そんなチャイコフスキーの交響曲第5番のみを収録し、若手ではあるが世界的に有名なアンドレア・バッティストーニが指揮を務めたディスクである。

まず、この曲について深く知ることになったのは去年のオーケストラの授業でこの曲を定期演奏会で演奏したからだ。私はこの曲を授業で演奏する際、いつも泣きそうになっていた。飛び抜けて好きな場所がある。それは、第2楽章の冒頭。この冒頭は弦楽器のヴィオラ、チェロ、コントラバスのみで演奏される。最初は暗く霧や霏がかかり、進む方向が合っているのかも分からないような、まるで抜け出せない深い闇を感じる。が、少しすると、調が明るくなり優

しく、そして柔らかく包まれる、誰かが救い出してくれるような希望を感じる。この暗さから暖かくなる瞬間、演奏している時はもちろん、何回聞いても涙を流さずにはいられなくなる。そして、その暖かさに連れてこられるようにホルンの美しいメロディが始まる。何度聞いてもハーモニーがずるくらい美しい。自分がチェロ奏者ということ抜きにしてもそう思う。

このCDでも、2楽章の冒頭はとても洗練されていて感動してしまう。このCDで好きなのは、バッティストーニという指揮者が彼なりの解釈で、かつ若々しい緩急がはっきりとした演奏だ。様々な指揮者が存在する中で、彼の若々しさがみなぎるこの演奏は聴いていて爽快で、かつ美しく、1度は手に取り聴いてほしいと思う。ぜひ図書館へ足を運んでこの曲に出会っていただきたい。

『交響曲第5番 / チャイコフスキー』
アンドレア・バッティストーニ指揮
RAI 国立交響楽団 Denon 2017
請求番号●XD73539



たかね しおん ● 音楽で悩むことも多いけど、音楽をやめられない。音楽は中毒的すぎる！上級生になり、思うようになりました。

昔の音から学ぶこと

CD

演奏・創作学科 鍵盤楽器（ピアノ）専修 3年 黒沼佳那

2年前、大学に入学し、初めて鍵盤楽器の歴史を学び、様々な楽器に楽器学資料館で出会った。また、レッスンで先生に「現代のピアノでは楽譜に書いてあるペダルだと多すぎる」と言われた。この2つがきっかけで、今自分が弾いている曲が作曲された時、どのような楽器が使われていたのか興味を持つようになった。バッハの平均律を弾く時は、「バッハの時代はチェンバロだった」ということが頭にあるからか、実際にチェンバロで演奏されたCDを聴く人が多いだろう。しかし、ショパンはどうだろうか？ピアノを学んでいけば、誰もが弾くであろう、「ピアノの詩人」と言われているショパン。実際にショパンの時代の楽器の演奏を聴いてみようと思う人は少ないのではないかなと思う。

このCDは、ショパンが愛した楽器として知られているプレイエル社のピアノで演奏された、ピアノ曲全曲が収録されている。演奏している横山幸雄さんは、ショパン国際ピアノコンクールで3位を取った、日本を代表するピアニストだ。未発表曲を含め、ショパンの全独奏曲212曲を約18時間かけて、暗譜で弾き通し、「24時間で、もっ

とも多い曲数を1人で弾いたアーティスト」としてギネス記録に載っている。このCDを聴いても、チェンバロでの演奏を聴いた時のように、「音が全然違う」という印象は持たないだろう。しかし、よく聴くと、ピアノで録音されたものより、こじんまりとしているが、しっとりしていて、横山幸雄の繊細な音のニュアンスがとても心に響く。内に秘めたものを表現するのに適している楽器なのかなと感じる。

音楽には私たちには想像もつかないくらいの長い歴史がある。その歴史を知ると同時に、当時はどんな楽器でどのような音で演奏されていたのかということを知ることが、音楽をつくる上で大切なことだとこのCDに出会い気づかされた。皆さんもぜひこのCDを聴いて、演奏に生かすことはもちろん、作曲家の生きていた時代にタイムスリップしてみてもはどうだろうか。借りる際には手提げバックを持ってくることを忘れずに！（とても重い笑）

『プレイエルによるショパン・ピアノ独奏曲全曲集』横山幸雄
King KICC 91440~51
請求番号●XD74588



くろぬま かな ● 令和初日に書きました（笑）令和はCDやナクソスだけでなく Apple Music とかにも手を出して、時代についていきたいです。